

## 学校教育目標

## 「心優しく逞しい子」の育成

## &lt;児童像&gt;

## 「気づき、深め、認め合う児童」

- (1) **気づき** ・人のことに気づく ・変化や相違に気づく
- (2) **深め** ・人のことを考える ・見方や考え方を变える
- (3) **認め合う** ・人の良さを知る ・違う考えを理解する

## &lt;教師像&gt;

- (1) 児童の心に寄り添う教師
- (2) 常に学び続ける教師
- (3) 誠実に働く教師
- (4) 協働し共に向上できる教師
- (5) 教育に携わる心意気をもつ教師

## &lt;学校像&gt;

## 「一人一人が大切にされ、生き生きと学ぶ学校」

- (1) 仲間と共に、楽しく学び合える学校
- (2) 自尊感情（自己肯定感）が高まり、活力と規律のある学校
- (3) いじめを許さない学校
- (4) 地域の学校として、愛される学校

<各方針> ※下線部分は本年度の重点です。

## (1) 学校運営

- ①職員間の「報告・連絡・相談」を重視し、職員が常に連携して動ける組織作りに努める。
- ②主任活動に協力・支援し、自主的・積極的な運営の充実を図る。
- ③地域と連携し、地域の力を活用した、開かれた学校教育を推進する。

## (2) 体育・健康・安全教育・食育

- ①基本的な生活習慣を身につけさせる。
- ②食に関する指導の充実を図る。
- ③遊・友スポーツランキング等を積極的に活用し、体力の向上に努める。
- ④部活動の意義を浸透させ、積極的に参加させる。

## (3) 学習指導

- ①全員が参加する授業を目指し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を行う。
- ②全ての児童にわかりやすい授業づくり・教室環境整備（ユニバーサルデザインの授業）を進める。

## (4) 特別支援教育

- ①児童の実態に応じた弾力的な教育課程を編成し、特別支援学級と交流学級の担任が連携し、交流及び共同学習を積極的に進める。
- ②保護者との連携を大切にしながら、個々の実態に沿った合理的配慮の提供に努める。

## (5) 生徒指導

- ①特別支援教育の視点に立った教育相談・カウンセリングの充実により、不適応行動の未然防止に努める。
- ②いじめの早期発見・早期対応に努める。いじめは許さない姿勢を徹底し、保護者と連携する。
- ③積極的な生徒指導により、児童が自分の良さを自覚できるようにする。
- ④Q U等の活用を図り、学級経営に生かす。

## (6) 道徳教育

- ①思いやりや規範意識等を身につけられるよう、社会とのかかわりに目を向けた学習を促進する。
- ②体験活動を充実させ、道徳の授業により補充・深化・統合を図る。
- ③「考え・深める」道徳授業の実践を推進する。

## (7) 特別活動

- ①行なうことによって自己有用感が高まり、児童の主体性を伸ばすことができる場を設定する。
- ②学級活動、児童会活動、学校行事を通して、教師と児童、児童相互の「共感的人間関係」を育てる。
- ③「自己決定」の場や機会を用意し、児童が自己実現の喜びを味わうことができるようにする。

## (8) キャリア教育

- ①児童が働くことへの夢や希望がもてるよう、社会への関心を持たせる。
- ②職業人講話・職場体験学習等を積極的に企画・活用する。

## (9) 職員研修

- ①時機を逃さず、課題に応じた研修を優先し行なう。
- ②職員の経験に応じた研修の充実を努める。

## (10) その他

- ①読書活動を大切にし、本に親しませる。
- ②情報化社会の中、情報モラルについての徹底を全教育活動の中で行う。
- ③清潔で美しい校内環境を維持する。
- ④漢字・計算など基礎学習の充実を図る。（漢字検定の推奨）
- ⑤プログラミング教育の実施
- ⑥校内での事故・ケガ発生時の対応
  - I 報告・連絡・相談の徹底 自分一人で処理しない
  - II 校内でのケガは、基本的に学校責任
  - III 事後のケアの徹底（家庭訪問・電話等）（連絡が遅れないこと）
- ⑦緊急時 救急車を呼ぶことをためらわない。
- ⑧「小山小指導のスタンダード」を整備・推進する。

※本年度重点の加筆として別紙「インクルーシブと学校」の内容を全職員で心がける。